

検像システムの構築及び今後の課題

公益財団法人 星総合病院 放射線科 ○遠藤 潤 (Endo Jun)

佐々木 和哉 澁井 政人 阿部 祐也 続橋 順市

【背景・目的】

新病院移転するにあたり、RISシステム・検像システムの導入が決定し運用を始めた為、検像システムの構築及び今後の課題について報告する。

【使用機器】

検像システム コニカ社製 I-PACS QA 2台 、ワークステーション GE社製 RA600 2台

【方法】

システム内容 検像システム コニカ社製 I-PACS QA 2台
ワークステーション GE社製 RA600 2台 を使用し構築を行った。

【システム構築にあたり問題点】

今回導入したI-PACS QAシステムは入出力合わせて接続台数制限があり、当院及び関連施設のモダリティをすべて接続することができない。

【システム構築】

- ①. RA600(接続台数制限なし)を各モダリティと検像の間に設置。
- ②. 関連施設も同様にRA600を設置。
- ③. 各RA600からI-PACS QAに接続することで、I-PACS QAへの入出力台数はPACSサーバーを含め5台となった。
障害対応を考慮し、各RA600を各I-PACS QAに接続、各RA600・各モダリティからPACSサーバーへの画像転送可能な接続とした。
- ④. I-PACS QA1(メイン)においては手動転送に対し、I-PACS QA2(サブ)においては主に超音波検査のみを受信している為、自動転送とした。

【結果】

検像システム導入後の業務改善点

- ①. RIS情報が反映していない場合には、アラート表示される為、間違いに気付く事が可能となった。
- ②. CRでは直近の同部位比較画像を確認することが可能となった。
- ③. RIS画面を参照しなくても検査目的を参照することが可能となった。
- ④. 患者情報の修正が検像システムで可能となった。

【まとめ】

今回、検像システムの構築を担当した。

検像システムを導入することにより、人力的配置の問題はあるものの、検像を業務とし画質チェック、確認を徹底することで、質の高い画像を提供できると共に、不要なデータ(ローデータ・再撮画像・マーカー添付間違い・画像未編データ)をPACSサーバーへ送信する事が少なくなった。

RA600を用いることにより、コストを抑えつつ、全モダリティの接続が可能となり、必要に応じて自動送信機能を用いることにより、業務の効率化に寄与できた。

また、1つの検像端末において放射線科における全モダリティの検像が可能となった。

しかしながら、一般的に各ベンダーが推奨する使用法ではない為、色々と課題は山積みである。

今後、更なるシステム改善をしていきたい。